



# アワーミュージアム

第29号 2005年11月1日発行

## 徳島市園瀬川の法花大橋下流に残る 貴重な自然環境

和田 太一 (友の会会員)

筆者は干潟の生物に興味を持ち、大阪を拠点として現在全国各地の干潟を渡り歩いて干潟の生物を調べています。徳島県にも吉野川河口という全国に誇れる広大で素晴らしい河口干潟があるため、その生物相を調べによく足を運んでいます。今回は吉野川河口調査の合間に訪れた園瀬川で見つけた貴重な自然環境の話です。

園瀬川の法花大橋下流の右岸に、本流から分かれて堤防をはさんで小さな水路のようになっている場所があります。この場所には以前はヨシ原と干潟を伴う自然豊かな湾処があったようですが、堤防拡張工事によってそのほとんどは潰されてしまったそうです。現在はわずかな範囲にその名残のように古い石垣とヨシ原とを伴った水路が存在していて、その裏には畑と人家が続いています。筆者は2005年7月2日に現地を訪れた際に、この場所に数多くの貴重な生物が生息していることを確認できました。ここで少し紹介してこの場所の大切さについて考えてみたいと思います。それぞれの生物の希少性について、徳島県環境生活部環境政策課(2001)が発行した徳島県レッドデータブックによる評価を以下( )内に示してあります。また今回の現地調査は、本会会員でもありとくしま自然観察の会代表の井口利枝子さんと一緒に行いました。

まずヨシ原内に分け入ると、ヒロクチカノコ

*Neritina (Dostia) violacea* (絶滅危惧Ⅱ類)、ムシヤドリカワザンショウ *Assiminea parasitologica* (準絶滅危惧)などの巻貝がヨシの根元でおびただしい数が這い回っています。ヒロクチカノコはヨシ原周辺の止水域に生息する巻貝ですが、ヨシ原の消失や悪化などにより近年全国的にその数は激減しており、全国各地の都道府県版レッドデータブックに汽水性の貝類としては最もよく登場する種になっています。ムシヤドリカワザンショウは福田(2000)では「ヨシ原に産するカワザンショウ類は環境攪乱への耐性が種間で異なり、ヨシ原の状態が悪化したときにまず最初にいなくなるのがムシヤドリカワザンショウである。」と述べられています。このことからこれらの巻貝が多く生息していることはいまだ健全な状態でヨシ原が保存されていることを示しているのです。またカニ類では、吉野川河口で有名なシオマネキ *Uca arcuata* (絶滅危惧Ⅰ類)が井口ほか(1997)によってこの場所で見つっていますが、今回もヨシ原内で多くの個体を確認できました。

石垣にはフタバカクガニ *Sesarma (Chiromantes) bidens* (絶滅危惧Ⅱ類)が石の隙間に巣穴を掘って多数生息していました。このカニは河口部の古い石垣をとくに好みますが、このような古い石垣は近年新しいコンクリートブロックに置き換えられている例が全国で見られます。

また潮下帯(浅い水中)で底の砂泥をタモ網ですくい取ると、アリアケモドキ *Deiratonotus cristatus*が多数見つかりました。この種も徳島県ではレッドデータ評価はついていないものの、あまり記録

の少ない種で、和田ほか（1996）では「希少」とされています。他にも潮下帯の砂泥の中からは小さな巻貝のカワグテツボ *Iravadia (Fluviocingula) elegantula* やイシマキガイ *Clithon retropictus*（絶滅危惧Ⅱ類）、二枚貝のヤマトシジミ *Corbicula japonica* や甲殻類のムロミスノウミナナフシ *Cyathura muromiensis* など汽水域で見られる底生生物が多数見つかりました。

ヨシ原から続く畑や人家周辺の後背地ではアカテガニ *Chiromantes haematocheir*（準絶滅危惧）・クロベンケイガニ *C. dehaani*・ベンケイガニ *Sesarmops intermedium*（絶滅危惧Ⅱ類）・ハマガニ *Chasmagnathus convexus*（絶滅危惧Ⅱ類）といったイワガニ科のカニたちが多数生息していました。これらのカニ類は、普段は干潟やヨシ原よりもやや陸側に生息するカニたちで、アカテガニが放仔のために海岸と森とを行き来することはよく知られています。しかし海岸部での護岸や道路の建設、埋め立てや宅地開発などによるヨシ原や後背地の消失で水域から陸域への連続した環境が分断される事によって、全国的にもその数は減少しています。これらのカニ類が後背地に多数見つかるということは水域から陸域への連続した環境が健全な状態で保存されていることを示しています。

また鳥類では河川の中流域の砂礫地に生息するチドリの仲間イカルチドリ *Charadrius placidus* もこの場所へ飛来し、周辺の河原で繁殖している可能性も考えられます。

このように本当にわずかな範囲に絶滅危惧種が多数生息しています。また絶滅危惧種に限らず、これだけ多様な自然環境を示す生物相が見られる場所は全国的にも非常に少なくなってきており、大変貴重な場所だと思われれます。しかしこの場所のすぐ真横には南環状線道路建設が計画されていて、今後この工事が行われればその影響が非常に心配されます。

またヨシ原や干潟などの環境はこれらの生き物たちの棲み処としてだけではなく、水中に含まれる栄養塩類を取り込んで水を浄化したり、森林と同じく二酸化炭素を吸収して地球温暖化を防止するなどの役割も担っており、私たち人間の生活にもなくてはならない非常に大切な自然環境なのです。堤防拡張工事によって大部分が失われてしまったとはいえ、このわずかに残された自然環境はとても貴重で、大切な役割を持っています。なんとかこのままの状態を保存して欲しいものです。

#### 引用文献

福田 宏. 2000. 巻貝類Ⅰ－総論. 佐藤正典（編）、有明海の生きものたち：124 - 125. 海游舎、東京。

井口利枝子・田島正子・和田恵次. 1997. 吉野川河口域周辺におけるシオマネキとハクセンシオマネキの分布. 徳島県立博物館研究報告. (7) : 69 - 79.

徳島県環境生活部環境政策課. 2001. 徳島県の絶滅のおそれのある野生生物

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島 哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤 真・島村賢正・福田 宏. 1996. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan Science Report, 3 : 25 pp.



水の中でたくさん見つかったアリアケモドキ

## 虫送り

おおすぎ ようこ  
大杉 洋子（友の会会員）

「サイトコベッコ ウッテントン 稲のむしゃ（虫は）土佐へ行け 土佐のむしゃ（虫は）伊予へ行け」

去る6月5日、海南町檜ノ瀬地区の曹洞宗高西寺で虫送りが行われると聞き、20人余りで出掛けた。山の緑が美しく、川も清らかで、生命が延びる様な所だ。

御住持の御供養の後、御住持を先頭に、鉦・太鼓を打ち鳴らし、小学生・土地の人々が列になり畦の上を七夕飾りに似た依代、大きい草鞋、藁で編んだスポケに握り飯を入れた物、槍、長刀を持って続き、虫「実盛」を送る。握り飯や草鞋を持たせ、川まで「送る」のである。

農薬で虫を容赦なく全滅させる今の農業では考えられない。「どうぞ他所へ行って下さい」と送り出し自然に消滅するのを待つのである。人間と自然の共存、つい最近まで行われていたことなのに、農民のやさしさ、忍耐。



①寺の境内を廻る



③水田のあぜを進む



②集落を巡る



④川に流して「送る」

去年の暮れ、富山、石川県境の倶利伽羅峠の近くにある斎藤実盛の首塚と首洗い池を訪れる機会があった。平維盛軍の1人として木曾義仲に破れた実盛を地元の人々は大切に、大きな塚を作り、今も大切にお祀りしている。

首洗い池の横には、昔自分を育ててくれた実盛の首実検に臨み、天を仰ぎ感極まる顔の義仲のブロンズ像がある。台座には芭蕉の句「むざんやな兜の下の きりぎりす」が刻まれている。実盛も73才という齢を隠すため髪を黒く染めての出陣であった。

それにしても虐げられてきた農民のこのやさしさ、ゆとり、長く伝統として培われてきた農民の心を取り戻すため、これからの子供たちに伝え守らなければならない。やさしさとゆとりを忘れていた今の大人達の義務であり、自分たちがないがしろにして来た大切な文化を、自分たちの手でもっともう一度地域に蘇らせなければならない。

美しいこの自然をかけがえのない自然を子子孫孫にまで伝えていきたいものである。

## 博物館紹介 28

## 徳島県立埋蔵文化財総合センター



いしお かずひと  
石尾 和仁（友の会会員）

板野町<sup>いぬぶし</sup>犬伏の高台、板野町歴史文化公園の一角に徳島県立埋蔵文化財総合センターがあります。施設の<sup>まいぞうぶんかざい</sup>前庭には銅鐸と分銅型土製品の<sup>どうたく ふんどうがた</sup>モニュメントが飾られており、<sup>おおあさ</sup>玄関脇には鳴門市大麻町で<sup>たてあなしきせきしつ</sup>検出された西山谷2号墳の<sup>おおあさ</sup>竪穴式石室が移設されています。なお、このセンターを管理・運営しているのは財団法人徳島県立埋蔵文化財センターですが、埋蔵文化財センターの発足は平成元年4月のことで、それ以来徳島県下の埋蔵文化財調査を<sup>はつくつ</sup>先導してきました。その<sup>はつくつ</sup>発掘調査成果を展示してあるのが、この埋蔵文化財総合センターです。

この総合センターの展示室には旧石器時代の<sup>いぶつ</sup>遺物からはじまり、古代・中世の出土遺物を時代順に展示してあり、一目で土器の形式の変遷が<sup>やよい</sup>理解できるように工夫されています。特に弥生土器の展示には多くのスペースが使われています。また、<sup>こくふ いせき</sup>徳島市国府町の矢野遺跡で見つかった銅鐸は、展示室入口に複製を展示するとともに、その出土状況を床面に復原展示してあります。その他展示品の中には<sup>はくほうき りゅうぜんはいじ</sup>白鳳期の隆善廃寺（阿南市）の瓦や<sup>かわら</sup>観音寺遺跡（徳島市国府町）の<sup>もっかん</sup>木簡など、各時代を代表する遺物も展示されていますが、徳島城下町遺跡出土の近世遺物については展示されておらず、残念ながら旧石器から江戸時代までを通観できる構成ではありません。今後の展示替えが望まれるところです。

また、発掘調査終了後の整理作業も館内で継続的に行われており、これまでに40を越える発掘調査報告書が刊行されています。こうした報告書は、その他の考古学関係・

歴史学関係の図書とあわせて<sup>えつらんしつ</sup>閲覧室に配備されており、自由に見ることができますので見学の際にはぜひ図書室にも立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

さて、今年は本センターが開館して10周年の記念の年に当たっています。こうしたことから、企画イベントがいくつか計画されていますし、普及行事もいろいろと企画されていますので、詳細は同センターの普及係までお問い合わせください。

## 徳島県立埋蔵文化財総合センター

- ◆開館時間：午前9時30分～午後5時
- ◆休 所 日：毎週月曜日（5月3日から5月5日までの期間のいずれかの日が月曜日に当たるときは5月6日、11月3日が月曜日に当たるときは11月4日）国民の祝日（5月3日から5月5日までの日、11月3日および日曜日に当たる日を除く）年末年始（12月28日～1月4日）徳島県立埋蔵文化財総合センター所長が定める特別整理期間
- ◆入 館 料：無料
- ◆交通案内：徳島バス鍛冶屋原行き「犬伏」下車徒歩5分、JR高德線板野駅より徒歩20分
- ◆所 在 地：徳島県板野郡板野町犬伏字平山86番地の2  
TEL 088-672-4545



徳島県立埋蔵文化財総合センターの外観

## 友の会行事報告



## バッタの観察会

しまだ としゆき ゆきこ  
○嶋田 利幸・由紀子（友の会会員）

とても楽しかったです。虫とりあみを持参していけばよかったです。虫カゴも。

とてもいい表を作ってきてくれたので、それを見たらバッタの名前がよくわかりました。子供はもちろん走り回って楽しんでいましたが、親も楽しくて、かしていただいたあみで夢中になってしまいました。

「バッタの観察会」という名でなくて、「草原の虫とりをしましょう！」みたいな名前でも募集したらもっと人数が多かったかなと思います。

でも、こぢんまりしてたくさん聞けたし、個人的にはよかったんですけど・・・



バッタ観察のようす



網をもってバッタを採集

いろいろ細かく説明していただいてありがとうございました。

なんぶ ようこ  
○南部 洋子（友の会会員）

最近、バッタ採りに夢中になったこと、ありますか？

園瀬川中州のくさむらで、ただひたすらバッタを追うのに興じている私って何者？って思いながら、それが堂々とできるのが嬉しい。“ああ、面白かった”って友の会に感謝。

でも、ただバッタを追っていたのではなく、それは観察するため。トノサマバッタ風のバッタが飛んで、飛んでやっとなつかまえたところで観察開始。5～6cmもある大型のバッタ。頭は丸い→前足のつけねの間にノドチンコがない→後ばねにはっきりしたもようがない→前むねの背中にイボがない→後ろ足の太ももの上べりはなめらか（この時点でトノサマバッタではないことが判明）→前むねにすじがあるということで“マダラバッタ”と判明。初めて聞く名前。でもこれが一番多かったようです。最後にお尻の部分を見てオス・メスを区別しておしまい。

まだハネが生え揃わない子供のバッタもたくさんいて虫の楽園は一時、上を下への大騒ぎでした。



説明をきく参加者

## 友の会行事報告



## 地引き網に参加して

ばんどう なおみち  
○坂東 直道（友の会会員）

7月31日（日）、阿南市中林漁港での地引き網体験活動に祖父母が孫2名をつれて参加しました。孫達は数日前から水着、ゴム草履、帽子、水筒等の点検、弁当や天気心配までする張り切りようでした。

当日は、5時起床で出発が待ち遠しくてたまらない様子で8時に自宅を出発しました。あらかじめ地図で目的地を調べていましたが、要所要所に博物館職員の方が立っし案内くださり、とまどうことなく漁港に着くことが出来ました。

連日の猛暑で熱中症が心配でしたが、当日の天気は薄曇りで心地よく一日を過ごすことが出来ました。良い思い出をつくってくださった関係者の方々に心から感謝し、お礼申し上げます。

ばんどう ゆいか  
○坂東 結花（友の会会員・8才）

おおぜいでアミの網をヨイショヨイショと声を張り上げひっぱったのがとても楽しかった。アミの中に大きなタイやアナゴなどがたくさんいて、はね回っているのを見てとてもうれしくなった。オケに入れられた魚のなまぐさいにおいはきらいで、魚をかわいそうに思った。タイのさしみはコシコシしてとてもおいしかった。波に向かって泳いだり、ヒトデやヤドカリが採集できたことがとてもうれしかった。

ばんどう かい  
○坂東 魁（友の会会員・4才）

ぬるぬるするアナゴをにぎったのがうれしかった。よせてくる波にふらつきながらも「なみパンチ」をして波をしりぞけ、波に勝ったと誇らしげであった。

みなみ くみこ  
○南 久美子（友の会会員）

孫達3人をつれて参加させていただきましたが、地引き網は初めての体験でした。孫達に感想を聞いてみると

「泳ぐのが面白かった。」

「砂遊びが楽しかった。」

「アミを引っぱるのが面白かった。」

「みんな楽しかった。」

と、口々に返事が返ってきました。

お世話くださった皆様には、暑いなか本当にお疲れさまでした。そして「夏休みの思い出の1ページ」をありがとうございました。

さたけ けいこ  
○佐竹 敬子（友の会会員）

昨年は荒天で中止となった地引き網。小学2年生の息子は始まる前から波と戯れ、ズボンには既に濡れている。それでも初めて海を見たかのように（実は校区内には川内町小松海岸がある）波と遊ぶ姿は楽しくて仕方がないようである。

網を引く・・・引く魚は奥へと逃げるのでなか



地引き網のようす

なかお目にかかれないが、鯛、穴子等たくさんあった。浜でさばいてくれて、料理へと変身していくのながを眺めるのも楽しかった。そしてとてもとてもごうか豪華な昼食となった。ありがとうございました。

○本田 壮一（友の会会員）

家族5人で参加しました。生きた鯛、穴子などを見て賞味できました。また海水浴（今年初めて）もでき、充実してました。

ただ、プラスアルファとして、砂浜にいたヒトデ、ウミケムシなどの説明があればなお楽しかったと思いました。

○佐野 竹司・郁代（友の会会員）

先日は地引き網ありがとうございました。子どもたちは着くとすぐに海水浴をして、家では食べず嫌いですが、あなごやたいのさしみまでとってもおいしかったそうです。

○佐藤 美穂（友の会会員）

ずっと前から楽しみにしていました。晴れるようにてるてる坊主をたくさん作りました。中止にならなくて「やったあ」と思いました。

いよいよ私たちの番が来て「やるぞ」と思いました。お料理もおいしかったです。また来年もぜひしたいですね。

○小川 朋美（友の会会員）

地引き網に一度行きたいと思っていたので、家族で参加でき良い経験となり、また夏の思い出の1つとなりました。ありがとうございました。海水浴もでき、テントの下でゆっくりと過ごせてのんびりできてよかったです。

とれた新鮮な魚を食べるといことはあまりできない経験でしたし、おいしかったです。どのアミにも鯛が3匹ずつ(?)入っていたのには驚きました。もっといろんな魚介類が食べたかったです。

魚がとれたときうれしかった。（小5 みゆ）

タイのおさしみがおいしかった。小さい魚をほうってしまうのがもったいなかった。（小3 あいり）

○福崎 博生（友の会会員）

先日、親子で「地引き網体験」に参加しました。子どもから年配の人まで大勢の人が楽しそうでした。引き上げた網からこぼれた小さな魚を子どもたちが手づかみで追いかけて回り、ピチピチ、ヌルヌルと動き回る魚を見て、漁をする気持ちを味わいました。海の恵みを感じながら取れたての生きた魚を料理していただき、さっそく刺身や焼き魚にいただきました。地引き網を経験して海の生きた魚を実感することができました。料理をする女の人の包丁さばきもさることながら、食材に姿を変えていく魚を見て、子どもたちは何を思ったでしょう。レジャー化してきている地引き網ではありますが、まだまだ豊かな海の恵み、海の環境を体験できます。漁をする心の高鳴り、海との関わり、営み、食について・・・

遠くに青い島影を眺めながら、手前の山の陰にある工場の煙突が見えました。今この豊かな海をずっと守っていきたく切に思います。夏休みの海水浴も一緒にできました。子どもも大喜びです。楽しい1日を本当にありがとうございました。



取れ立ての魚を食べる

## 事務局からのお知らせ

### あなたの原稿待っています

この会報「アワーミュージアム」にあなたも投稿してみませんか？専門的な文章はちょっとねえとお考えの方も多いかとは思いますが、そこでまずは以下の項目で原稿をお寄せいただきたいと思います。

#### 博物館紹介

- ・ ご近所の博物館
- ・ 行ったことのある博物館 等  
(県内外を問いません)

#### 会員広場

- ・ ご近所で話題になっているトピックス的なもの
- ・ へえ〜というトリビア的なもの
- ・ 趣味やサークル紹介など

※小・中・高校生の方の原稿も大歓迎です。

### 行事スタッフ募集

友の会では行事のチラシの作成や、写真・ビデオ撮影等のスタッフとして協力いただける方を募集しています。

お友達・ファミリーでの参加も大歓迎です。

詳しくは友の会事務局までお問い合わせください。

## おまけのコーナー



9月18日(日)に行われた“雑草の観察会・草の風”のようすです。行事は好評で、“定期的に行おうか”という声も！

徳島県立博物館友の会会報

# アワーミュージアム



No.29  
November  
2005  
Tokushima  
Prefectural  
Museum

### 第29号

2005年11月1日 発行：徳島県立博物館友の会  
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内  
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197